

2005年に山梨で自社工場を始めて20年、岩手工場は15年。自社工場でしか出来ないカシミアニットのオーダー。海外からも評価して頂けるまでになってきました。

大阪夢洲で万博が始まりましたね。70年の時は10回以上も行きました。機会を見つけて今回も一度は行ってみたいです。

全国でオーダー会をやっています。4月は仙台で、5月はパリと名古屋、6月は大阪。当社青山の本店は夏季は毎月の予定です。何年も着用するカシミアニットだから、夏場でのご注文をお勧めします。



【岩手日報】1月30日 日報総研
達人の手さばき・カシミア至福の一枚

岩手工場の製造主任・館下愛美が、北上市に続き岩手県から青年卓越技能功労者に認定され、日報総研の特集号で「カシミア至福の一枚」という記事が一面トップで掲載されました。

【岩手日報】3月8日
岩手県庁へ
東日本大震災への寄付

葉の売り上げの一部と当社から、「いわて学びの希望基金」に40万円を寄付させて頂きました。14年間で390万円になりました。



【衣装提供協力】日曜劇場キャスト4月13日

北大路欣也さんが四ツ全カーディガンを着用

【インバウンドのお客様】

最近海外から、東京南青山の本店（ショールーム）に来店されるお客様が多くなりました。骨董通りのビルの6階にあるので、通りがかりの方が来店されることはほばないハンディのあるショップで、ネットの予約サイトや電話での予約が主です。

東京に行くので試着したり風合いを確かめたいというようなお客様で、首都圏からはもち

ろん大阪や九州という遠方のお客様も珍しくありません。そんな来客のなかでも昨年あたりから多くなったのが外国からのお客様です。

アメリカからのお客様が多いのですが、ニューヨークを始めサンフランシスコやロサンゼルスはもちろんポートランドなどの地方都市からも来店されます。

台湾、韓国のアジア。先日はスペインからのお客様でした。

殆どのお客様が日本に旅行に来たのを機に来店してくださっています。昔ならこんなビルの6階のお店は対象外でしょうが皆さんウェアサイトと地図検索で平気で来店されます。

年中暑いはずのシンガポールからの来店に不思議に思っていました。冬に日本へ渡航する準備にはかせません。冬にならないとカシミアが買えないので一年中カシミアが揃っているのでもっとも助かる」という嬉しい答えです。当社の英語サイトを見ているので日本に行く機会には行きたいと思っていたというお話です。地球は小さくなったものです。

写真：吉田



【青山・表参道界限】
カシミアおやじの

突然の道路出現

Ｔ字路が十字路に

1992年にこの骨董通りで創業して以来33年になりますが、新しいビルができたり、中の店舗が変わったりすることは頻繁にあります。大きく変わりつつありながら、T字路が十字路になり立派な道路が出現したことです。まさに地図が変わったのです。

南青山6丁目の角にある青山井当の前の骨董通りはT字路でした。

骨董通りに向かって赤坂から青山墓地を通ってまっすぐここに突き当たるT字路で、そこには4～5階建てのルミネというビルがあり、その中にはパパス、マドモアゼルノンというブティックが入っていました。

霧囲気の良いパパスカフェもありました。たまに買い物したりパパスカフェで打ち合わせなどをしたこともありです。2009年頃、閉店するという予告がありました。

理由をお店の人に聞いたことはありませんので、新たなお店が入りどこかに移転するんだと思っていました。



ある日、ビルの取り壊しが始まったので、建て替えるのかと思っていました。しばらくぶりにそこへ行ってみるとビルが解体され、あれよと言つ間に立派な道路ができたのです。T字路にあったビルの裏や六本木通りの方はほとんど行く機会がありませんでしたので状況を知るよしもなく、それまで見えなかった六本木通りと上の高速の橋桁首都高速3号線が現れたのにびっくりしました。

ここをまっすぐに行くと六本木通りを突っ切って恵比寿の方まですぐ行けるようになります。車も人もとても便利になりました。慣れるのは早いものです。今では道路があるのは当然で、あそこビルがあったことは想像もできません。

レディース：カシミア100%

Vネック ウエストシェイプセーター
袋編みタイプ
1112-1002 ￥66,000(税込)
絶妙にシェイプされたウエストラインと、女性らしいほどよく抜けのある首回りを演出できるVネックセーター。
ネックライン・袖口・裾は袋編みを施したシンプルなデザインで、首元をシャープに見せてくれるネックラインがポイント。
オフィスなどでも馴染むスマートなシルエットで、ボトムスを選ばずお召しいただけます



メンズ：カシミア100%

ハイネック ジップカーディガン
1212-2207 ￥97,900(税込)
カシミアを贅沢に使用したジップアップカーディガン。
さらっと羽織るだけで、抜群の軽さと暖かさを体感して頂けるアイテムです。
カシミアを使用することでカジュアルになりすぎずに使えるのも嬉しいポイント。
少し高めに設定したハイネックが、品格ある雰囲気演出します。最高級のカシミアを纏う贅沢を実感できるアイテムです。



小物：カシミア100%

スロンティングマフラー（160cm×32cm）
1312-3363 ￥19,800(税込)

“透ける”ほど薄くカシミア100%糸を編み仕立てた、涼しい季節のお出かけにぴったりでより軽やかでさらとした印象のマフラーです。



カシミアとニットの話 * (八十二)

カシミアか？ カシミヤか？

素材表示は洗濯の時にとても大事

貴方はカシミア派ですか？カシミヤ派ですか？どっちでもいいようなものですが、私はずっとカシミアを使ってきました。

1992年に、ここ東京青山でニットメーカーを創業して以来ずっとお客様(婦人服店)に向けてこの通信を書いてきました。その通信の中でニットやカシミアのことを知ってもらいたい弊社のニット販売に役立ててほしいという思いがあり「カシミアとニットの話」というコーナーでカシミアという素材、糸の製造にまつわる紡績の話、製品の出来るまで製造のこと等々を書いてきました。

通信を書き通づけて10年以上が経った2005年のある日、業界新聞の織研新聞社の阿部さんから電話を頂きました。私が前職のニットアパレルにいる頃からの知り合いで通信を送っていたのです。10年の間に阿部さんは織研新聞社の常務さんに出世されていました。



「今まで10年間出していた通信の中の『カシミアとニットの話』はずっと読んでいますよ。随分と溜まってきたと思うので本にしませんか？」という有難いお話でした。

「私でいいんですか？」とお聞きしたら、「宇土さんの通信は偏りがなくニット全般を書いてあるので貴重なんです」という事でした。各分野毎、原料の専門家、糸の専門家の中でも染、や紡績、製造のニッターさんなど広い範囲に及ぶので広範囲でカシミアとニットのことをわかりやすく書いているというお褒めの言葉を頂きお受けすることにしました。

その時までカシミアのことはずっとカシミアと書いてきました。それまでにたまった原稿を織研新聞社の編集の方にお渡しすると、「今は

カシミアに統一されているので、カシミアにしてください」ということで、カシミアという表記を知りました。

カシミアよりカシミアの方が慣れているし、イタリアはイタリアとはあまり読まないし。普通aで終わるのはアだと思っていました。何となく違和感がありましたが決まったことは仕方ありません。カシミアに慣れるしかありません。

* 法律や基準について

日本では、衣料品の表示に関して「家庭用品品質表示法」が適用されます。この法律に基づき、繊維製品の表示基準では、カシミア製品について明確な力タカナ表記の指針はありません。

それ以前はカシミアという表記はダメで「毛またはウール」でした。一度、経済産業省に問い合わせたことがありますが。その時は「動物の毛はすべて毛またはウールです」と言われてしまいました。それでも「うちはカシミア100%しか扱っていないのですが」と粘ったら「ウール100%にして、欄外に内カシミア100%としたらどうですか」という答えでした。

ウールもしくは毛と表示しなければならぬ」と法律に決まっていますが、欄外に書いてはいけな」とどこにも書いていない。「なるほど！」と、喜んだことがあります。

その後2000年に改訂されてカシミアの表記が可能になりました。

70 年の大阪万博



万博と言えば私にとってはなんといっても、大阪千里で開催された70年万博です。

「万博には100回以上行きました！」と言え驚かれるかもしれませんが、当時横浜にある大手旅行会社の学生アルバイトで万博に行くツアーの添乗員をやっていました。

この70年の大阪万博を切っ掛けに日本に団体旅行ブームが始まりました。

それまでは旅行好きの若者が大きなリュックを背負ってユースホステルなどに泊まる安旅行をするのが盛んでした。私もご多分に漏れずカニ族で日本中を巡りましたが、一般の人たちが大挙して旅行をすることはありませんでした。

この大阪万博を観るために、地域密着の信用金庫などの金融機関が商店会などで、「毎月積み立てをして大阪万博へ行こう」というキャンペーンを始め、日本中に団体旅行が盛んになりました。新横浜から新大阪までの往復は64年に開業した新幹線で、「大阪万博と京都一泊二日の旅」、「大阪万博と有馬温泉一泊二日の旅」というように殆どが一泊旅行でした。一日は万博見学で、他は京都や奈良、有馬温泉、伊良湖、浜名湖、山寺温泉などいろんな観光地や温泉場です。

50名のお客様を30秒停車の新幹線を遅らせないようにどのように誘導するか。また温泉などでの泊まりの夕食は大広間での宴会がつきもので、下戸の私は「添乗中に一滴でも飲んだらくびと会社から言われています」などと言って、飲まれないように逃げ回った、苦く懐かしい思い出です。

万博の開始前には現地で旅行関係者用の説明会があったのですが、始まったら会場は混雑が凄すぎて、月の石のアメリカ館、ソビエト館などは2時間3時間待ちが普通で、事前の視察で予想したことは全く参考になりませんでした。

スタイル抜群で素敵な制服のコンパニオンと呼ばれる各国のお嬢さんたち。こんなに多くの外国人に出会ったのはこの大阪万博が初めてで、地球上には顔つきも体つきも違う多くの民族がいることを実感しました。

大混雑の中、自分たちのグループのお客様がちゃんと集まってくれるか本当に冷や冷やし通し

想い出のホテルを旅する(八十二)

元 旅行屋のお勧め パリ・フランス

旧・ホテル テルミナス サンラザール

1970年代は旅行屋をやっている海外へお客様を案内していました。その頃日本は海外旅行の自由化が始まって間もなくで年間海外渡航者が500万人もいない時代です。今と違い海外の情報は殆どなく特にヨーロッパは憧れの地で「一生に一度」とか「冥途の土産」と言われる時代でした。いまでは日本のトイレは世界に誇るといっても、世界に驚きをもって高評価されますが、当時の日本はまだ水洗トイレが珍しく笑い話のようなお風呂やトイレなどの失敗が頻繁に起こっていました。

今回のこのホテル テルミナス サンラザールを思い出すと頭に浮かぶエピソードがあります。このホテルはオペラ座のすぐ近くでパリ市内では便利な場所と言えます。パリ サンラザール駅の真ん前にある巨大で重厚な建物です。パリで最も古い駅で日本でいえば東京駅か上野駅に当たると言います。

圧倒されるほど天井が高くしかも大理石の柱も豪華な装飾でまるで宮殿のようなロビーです。なのに部屋は狭くて暗いのです。豪華な建物だけに部屋にも期待が高まるのは当然です。ですから空港からホテルへ向かうバスの中で現地のガイドさんがこんな案内をしていました。

「ヨーロッパが初めての方？ではヨーロッパ以外への経験者の方は？」いつも半数近くがアメリカやアジアへの経験者でした。



「ヨーロッパのホテルは皆さんが期待されているより狭くて暗いのが特徴なんですよ！」という説明から始めるのが常でした。「特にハワイなどのリゾートのホテルの部屋は明るくて広いのが常ですので、渡航料金の高いヨーロッパのホテルの部屋も豪華で明るく広いイメージをもつて来られる方が多いので、まずこの話をするのです」と教えてもらいました。

今はヒルトン・パリ・オペラ という名前で営業しています。外観はもちろん住所も同じですが間違いのないと思います。

きつと大改装をしていると思います。外観は全く変わらないので今はどうなっているか知りませんが建物と同じです。アメリカ資本のヒルトンホテルなのできつと明るくしているんだろうと想像しますが、懐かしいエピソードです。